

令和7年度(2025年度) 第1回 河川工作物AP会議

「サシルイ川治山ダムの改良について」

令和7年(2025年)8月5日



北海道

水産林務部林務局治山課
根室振興局林務課

1 現在までの対応状況について

令和4年度

石組みによる魚道及び減勢工の設置、治山ダム本堤及び副堤の放水路断面修正

令和5年度

改良工事の効果検証調査としてサケ科魚類のモニタリング調査を実施

→第1治山ダム上流で確認されたサケの産卵床の割合は、改良前の1/3以下に減少
(カラフトマスの産卵床割合は改良前と同程度の数値。)

令和6年度

サケ科魚類の遡上が回復するように、石組み魚道及び治山ダムの再改良



2 令和6年度の改良工事について

改良の概要

- ①折り返し部分からの狭隘な遡上経路 → 治山ダムの本堤を削り、遡上経路の幅を拡幅
- ②遡上後の水深の確保 → 治山ダム本堤の天端を削り、水深を確保
- ③越流水により生じる気泡や遡上経路に対する横の流れ → 越流水落下部に石組みを追加
- ④魚道内の土砂堆積 → 治山ダム上流部に水制工を施工



3 令和6年度の改良工事の目的について

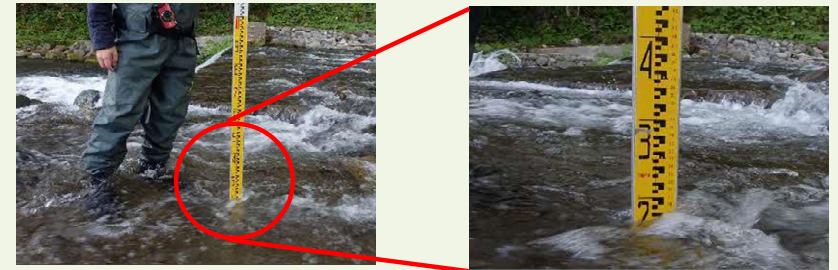
①治山ダム本堤を削り、遡上経路の幅を拡幅

→サケ科魚類の遡上に必要な幅(30～35cm)を確保するため



②治山ダム本堤の天端を削り、水深を確保

→ダム放水路の水深が18cmと浅く、30cm程度の水深を確保するため



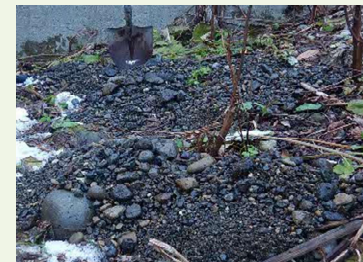
③越流水落下部に石組みを追加

→越流水により生じる気泡や遡上経路に対しての横の流れを緩和するため



④治山ダム上流部に水制工を施工

→魚道折返し部への石礫の堆積を軽減



3 工事実施状況(水制工)

上空から撮影



近景①

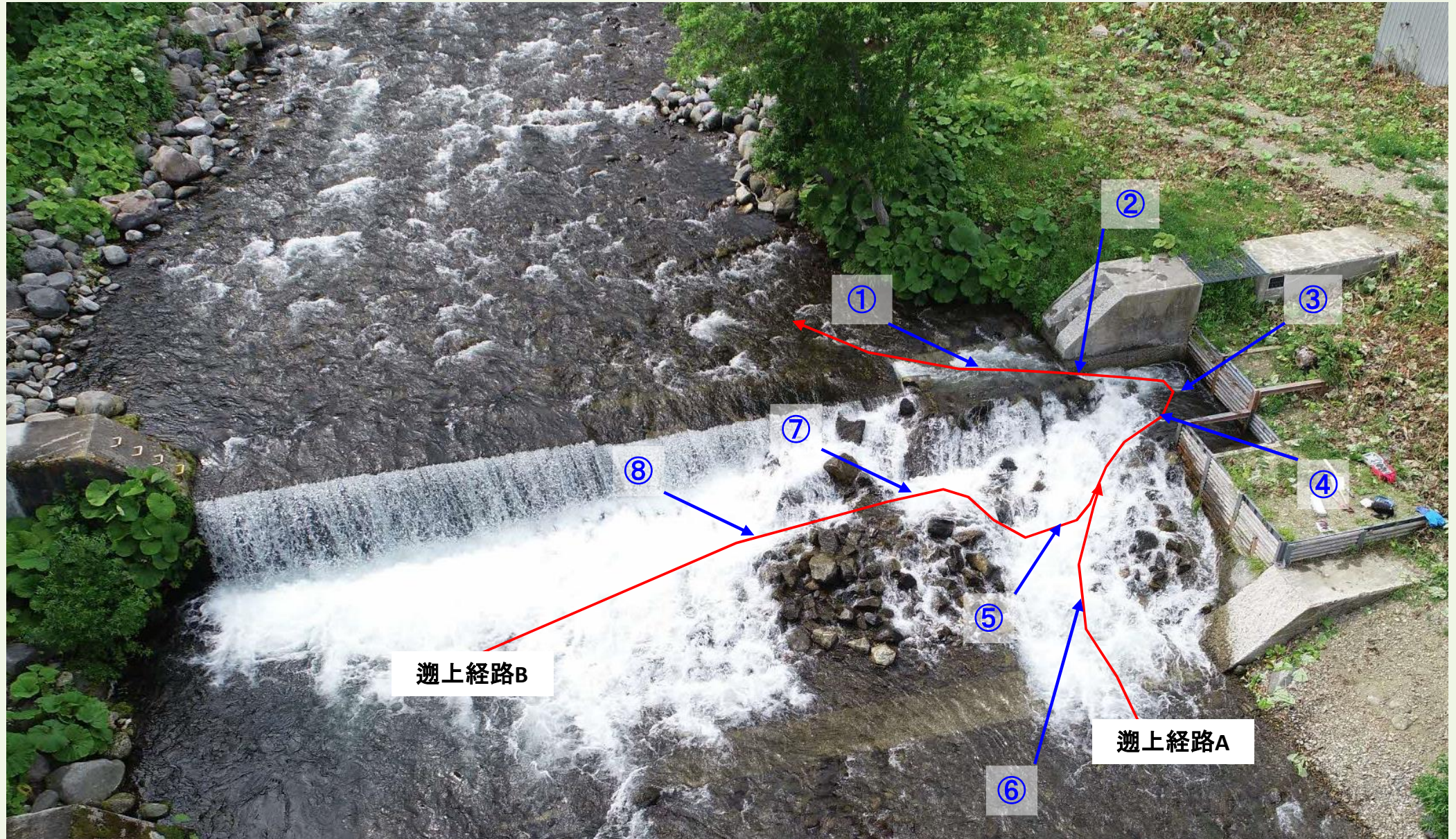


近景②



撮影年月日: 令和7年3月13日

4 観測場所



撮影年月日: 令和7年7月3日

5 観測結果

計測日：令和7年7月3日

計測箇所	流速 (m/s)			水深 (m)
	水底	水中	水面	
① 治山ダム天端	0.735	0.221	0.277	0.42
② 折返し部出口	1.373	1.384	1.672	0.30
③ プール部	0.305	0.490	0.728	0.28
④ プール部入口	0.529	0.488	0.505	0.31
⑤ 遡上経路B①	1.929	2.275	2.363	0.34
⑥ 遡上経路A	0.509	1.234	4.221	0.51
⑦ 遡上経路B②	0.175	0.198	0.878	0.35
⑧ 遡上経路B③	0.445	0.580	2.737	0.53

6 まとめ

・折り返し部分からの狭隘な遡上経路

→30～40cm程度の幅が確保され、改善された。

・遡上後の水深の確保

→概ねの箇所では30cm程度の水深は確保されており、改善された。

・越流水により生じる気泡や遡上経路に対する横の流れ

→石組みを追加したことで、
越流水が直接流入しない箇所に遡上経路が確保されており、改善された。
また、遡上経路の水底及び水中の流速はサケ科魚類の
巡航速度1.3～2.8m/sの幅に収まっているため、
遡上の妨げにはならないと判断。

・魚道内の土砂堆積

→魚道折返し部について、径の大きな石礫の堆積量が減っていることから、
一定の効果があることを確認。